



知基第101号  
令和2年8月5日

第18航空団司令官  
ジョエル・キャリー 准将 殿

沖縄県知事 玉城 デニー



嘉手納飛行場におけるパラシュート降下訓練の実施について（抗議）

7月9日、嘉手納飛行場において、米軍によるパラシュート降下訓練が実施されました。

県としては、嘉手納飛行場におけるパラシュート降下訓練は、沖縄県民の基地負担の軽減を図るというSACO最終報告の趣旨に沿って厳格に運用されるべきであると考えており、これまで幾度となく嘉手納飛行場で同訓練を実施しないよう強く要請してきました。

それにもかかわらず、嘉手納飛行場におけるパラシュート降下訓練は、平成8年のSACO合意以降繰り返し実施され、特に令和元年の実施回数は過去最多の4回となっており、同飛行場におけるパラシュート降下訓練が、常態化しているものと言わざるを得ず、大変遺憾であります。

県や地元自治体などの要請・抗議を一顧だにせず、伊江島補助飛行場の気象・海象状況などを理由に、「例外的な場合に限る」とされる嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練を繰り返す米軍の姿勢に対し、県民の米軍への不信感が高まっており、今後の嘉手納飛行場の使用、ひいては日米安全保障体制に影響を与えるものと危惧します。

ついでには、今回の嘉手納飛行場におけるパラシュート降下訓練の実施に強く抗議するとともに、今後、同飛行場においてパラシュート降下訓練を実施しないよう、強く要請します。